



# 朱と考古学

水銀朱は、どのようにして辰砂鉱物から作りだされたのか。製品となった水銀朱は、どのような使われ方をしたのか。国史跡若杉山辰砂採掘遺跡の調査から分かった生産過程と、水銀朱の使用例が数多く見つかった。出雲地域の事例から、弥生時代における水銀朱の在り方を探ってみましょう。



阿南市水井町にある「若杉山辰砂採掘遺跡」は弥生時代後期から古墳時代初頭における全国唯一の辰砂採掘遺跡で、令和元年10月に国史跡に指定されました。現在は、本市は史跡の適切な保存と活用を行うために、基本計画の策定を進めています。また、継続して調査や研究も実施しています。そんな中で今回、「若杉山

で採掘された辰砂鉱石がどのような生産過程を経て水銀朱となり、それがどのように使われていたのか」をテーマにした講演会を開催します。本講演会により、市民の皆さまの「若杉山辰砂採掘遺跡」に対する理解が一層深まり、また今後の調査研究に弾みがつくことを期待します。

## 辰砂から水銀朱をつくる

若杉山辰砂採掘遺跡において、出土した石杵や石臼から、辰砂鉱石を微細な粉状にして水銀朱を生産していたことが明らかになっています。その作業工程は復元されているものの、実験や検証が行われた例が見られません。

徳島県立博物館には、過去に若杉山辰砂採掘遺跡周辺で採集されたとされる辰砂鉱石が保管されており、それを素材として辰砂から水銀朱をつくる実験を行いました。また、水銀朱の品質を高めるために行うと考えられる「水簸」についても実験を行いました。

これらの結果から、若杉山辰砂採掘遺跡で行われた辰砂採掘や水銀朱の精製について考えます。



徳島県立博物館学芸員 植地岳彦さん

平成7年より(公財)徳島県埋蔵文化財センターで、保存科学の手法を用いた資料調査や保存修復業務、普及教育業務にあたる。平成28年より現職。考古・保存科学の分野を担当。



辰砂の微粒子



水簸実験の様子

## 出雲地域における赤色顔料の調達と使用、その意味



出雲弥生の森博物館学芸員 坂本豊治さん

平成11年より出雲市役所で約12年間、出雲市内の発掘調査に従事。平成23年より出雲弥生の森博物館学芸員。主な研究テーマは、出雲平野の弥生土器・石器・木器。出雲神楽の舞方。

古代に使われた赤色顔料にはベンガラと水銀朱があり、水銀朱の方が高価といわれています。赤色顔料を使った著名な遺跡に、島根県出雲市の西谷3号墓があります。



西谷3号墓の木棺に敷き詰められた水銀朱

弥生時代後期(2世紀後半)に造られた全長約60mの大形墳丘墓で、10人近くが埋葬されていました。それらのうち、4つの木棺で水銀朱を確かめました。その推定重量はそれぞれ10kg、10kg、5kg、4kgで、総重量約29kg。弥生墳丘墓では、全国で2番目に多い量です。さらに、お葬式に使われた約330個体を超える土器にも水銀朱が塗



水銀朱と首飾り

られています。これら大量の水銀朱はどこから調達したのでしょうか。講演では弥生・古墳時代の赤色顔料の産地や使用状況を紹介し、その使用の意味についてお話しします。

## 「史跡若杉山辰砂採掘遺跡」普及啓発講演会 水銀朱の生産と使用

日時 10月16日(土) 午後1時30分～4時30分  
場所 コスモホール (情報文化センター)  
羽ノ浦町中庄上ナカレ16番地3

講演① 辰砂から水銀朱をつくる 講師 徳島県立博物館学芸員 植地岳彦さん

講演② 出雲地域における赤色顔料の調達と使用、その意味 講師 出雲弥生の森博物館学芸員 坂本豊治さん

申込方法 往復はがきの往信用裏面に  
①住所  
②氏名(一通に2人まで可)  
③電話番号  
を記入の上、左記まで郵送してください。

〒774-8501 富岡町トノ町12番地3 文化振興課講演会係宛  
申込締切日 9月30日(木)(必着)  
定員 200人

※応募者多数の場合は抽選。  
問い合わせ 文化振興課 ☎22-1798

当日、会場での新型コロナウイルス感染症予防対策にご協力ください。



史跡マスコットキャラクター 若杉シンジャくん